

- ▶ 牛久市では、牛久自然観察の森の活動を通じて、国内の森林整備の結果、産出される間伐材の利用や、広く市民にその利用について普及啓発に取り組むことに森林環境譲与税を活用していく方針である。
- ▶ 令和2年度において、以下の取組により、牛久市産の間伐材を利用した木製玩具「二人でコロコロ」等を製作する木材利用と、施設内の木育ひろば及び出張木育ひろば開催により森林資源についての普及啓発を行った。
  - ・ 市内にある牛久自然観察の森にある木育ひろばで、赤ちゃんから大人までを対象に木のおもちゃとの触れ合い、温もりを感じ、香りに包まれる体験により、材料となる木を通じて、森林に興味を持ってもらうきっかけづくりや森林資源の普及啓発活動を行った。
- ▶ 令和3年度においては、木材利用促進及び普及啓発に加え、森林地の整備保全等にも活用していく予定。

## 事業内容

### 自然観察の森での木育活動の充実

- ・ 施設内の森林整備及び伐採後の間伐材を利用し、木育ひろばで遊べる木製玩具等を製作。施設内及び外部出張にて、普及啓発を実施。

【事業費】42,320千円（うち譲与税8,308千円）

（譲与税は、施設内の森林整備費、木製玩具等制作費に充当）

【実績】木育ひろば利用人数

年間 6,086人



（親子がひろばで遊ぶ様子）



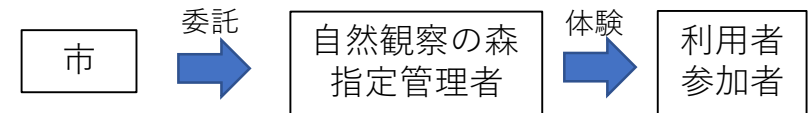
（県産木材で製作した木製玩具遊ぶ様子）



（「二人でコロコロ」施設内の間伐材で製作した木製玩具「ロボット」）

## 事業スキーム

自然観察の森での木育活動の充実



## 工夫・留意した点

- ・ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大対策として、休園、休館が続いたため、利用者数が減じた。開館したときに、安心して利用できるように、木のおもちゃ、机、いすなどをアルコール消毒と紫外線殺菌を日々行い、参加者に安心して利用できるよう対応した。
- ・ また、出張木育ひろばを利用した親子、近隣住民が木の積み木など、普段と違う木のおもちゃを利用することで、観察の森の木育ひろばへの来園の普及啓発につながった。

## 基礎データ

①令和2年度譲与額	8,308千円
②私有林人工林面積（※1）	509ha
③林野率（※2）	1.0%
④人口（※3）	84,317人
⑤林業就業者数（※4）	5人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3、4：「H27年国勢調査」より